

Movie Review 20 #7月22日

『#7月22日』(2018年制作、ポール・グリーングラス監督・脚本・製作)をNetflixで視聴した。

2011年7月22日(この年は東日本大震災の年)にノルウェーのウトヤ島で起こった無差別銃乱射事件を、生存者の証言に基づき映画化。同日、ノルウェーの首都オスロの政府庁舎前で車に仕掛けられていた爆弾が爆発する。世間が混乱する中、オスロから40キロ離れたウトヤ島で今度は銃乱射事件が起こる。そこでノルウェー労働党青年部のサマーキャンプに参加(約700名)していた10~20代の若者たちが犠牲になった。犯人は32歳のノルウェー人の男で、極右思想の持ち主である。彼は、政府の移民政策に不満を抱きテロを計画。政府庁舎前の爆弾で8人、ウトヤ島の銃乱射で69人と、単独犯としては史上最多となる77人の命を奪った。映画の前半は同テロ事件のうちウトヤ島での惨劇に焦点を当てている。後半は裁判と被害者のリハビリの様子が描かれる。はじめ心身衰弱で精神病院送りとなるはずであったが、犯人の希望で思想を披露するため、悔悟の気持ちも見せず裁判となる。

判決は如何に？

私たちは世界をどう変えたらいいのか？民主的で多様性を認める世界を、狂信的な集団の攻撃からどう守ればいいのか？

ノルウェー連続テロ事件は、2011年7月22日に極右思想の白人男性のアンネシュ・ベーリング・ブレイビクが首都オスロにある政府中枢部、首相執務室も含む庁舎群で爆破テロを行い、庁舎を破壊し8名を殺害し、続いてウトヤ島で労働党の青年69名を銃で殺害した(319名が負傷)連続テロ事件である。

2009年秋に犯人は爆弾製造のための爆薬や化学肥料の入手し、80日間をかけて爆弾を製造した。オスロ庁舎に続く第二の標的として、首相がウトヤ島に訪問予定であったため、そこを標的として銃撃の準備を進めた。犯人は2011年7月17日にSNSに犯行決意を書き込み、2011年7月22日の犯行直前に1514ページの文書をウェブに公開した。自らテンプル騎士団を自称し、殉死作戦を書き連ねた。犯人は多く欧州諸国の極右運動を範としていたが、その反応は直接的関与があったにもかかわらずそれを積極的に否定するなど一様に犯人に「冷淡」であった<sup>1</sup>。

ノルウェーの検察当局は、7月23日、反テロ法違反および計画殺人の罪で犯人を起訴した。犯人は公開審理を要求していた。犯人は「イスラムによる乗っ取りから欧州を守るため」を動機として「反多文化主義革命」に火をつけることをあ

げ、「非道ではあるが必要なことだった」と主張して、無罪を主張した。その後統合失調症である鑑定結果が裁判所に提出され、裁判は行われない可能性が高まった。精神病院で治療されるにとどまる可能性が大きくなったことを受け被害者の遺族が反発し、裁判所は再鑑定を命じた。鑑定が続く中、検察側は犯人を精神病療養施設へ強制収容するよう主張したが、犯人は精神病ではないと主張し続けた。2012年8月23日、司法裁判所は禁固最低10年、最長21年の判決を言い渡した。2022年、仮釈放の申請がなされ、犯人を法廷に招いて審理が行われたが、仮釈放申請を却下された。